

林野庁 令和5年度林業イノベーションハブ構築事業
林業イノベーションハブセンター（森ハブ）
第1回専門委員会 議事概要

作成日：2023年7月31日

日時	2023年7月31日 13:00~15:10
場所	デロイトトーマツ会議室 所在地：東京都千代田区丸の内三丁目3-1 新東京ビル7階
議題	<ul style="list-style-type: none">▶ 開会<ul style="list-style-type: none">(1) 挨拶：林野庁(2) 委員紹介・挨拶(3) 座長選出▶ 今年度の林業イノベーションハブ構築事業について▶ テーマ別の実施方針について<ul style="list-style-type: none">(1) テーマ1:新技術(2) テーマ4:森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援）(3) テーマ4:森ハブ支援体制構築（森ハブチェックリスト作成）(4) テーマ5:森ハブ・プラットフォーム構築(5) その他▶ 閉会<ul style="list-style-type: none">(1) 今後のスケジュールについて
資料	資料1-1 森ハブ取り組みの全体像 資料1-2 令和5年度の事業概要 資料2-1 テーマ1_新技術 資料2-2 テーマ4_森ハブ支援体制構築（地域への伴走支援） 資料2-3 テーマ4_森ハブ支援体制構築（森ハブチェックリスト作成） 資料2-4 テーマ5_森ハブ・プラットフォーム構築 資料2-5 テーマ5_森ハブ・プラットフォーム構築_紹介シートサンプル 資料3 今後のスケジュール

【議事概要】 ※資料記載事項は割愛

1. 開会

- (1) 挨拶：林野庁研究指導課
- (2) 委員紹介・挨拶
- (3) 座長選出
 - 立花委員を選出

2. 今年度の林業イノベーションハブ構築事業について

- 機械開発に関しては、ニュージーランドの機械開発や林業についてベンチマークを設定した方が良いのではないか。デジタルに関して、システムをバラバラ入れていくとそれぞれのシステムがつかないという問題が出てくるため、全体のプラットフォーム（以下、PFと記載）設計をしっかりとした方が良いと考える。ヨーロッパではGAIA-X構想があり、国家戦略として、グローバルで戦略を展開していくという位置づけでPFを作っている。
- イノベーションを起こすには、ネットワークをつなげるなどして、創造、変革につなげていく視点が重要である。新しい価値をどう作るかということを経営設計の思想に入れなければ、部分最適で終わってしまう。部分最適なもの全体像でつなげ、新しい価値が創造できるという経営設計の思想を整えていただきたい。
- 森ハブからのコーディネーター派遣に関して、税金を使って事業をやっているからにはしっかりと成果を上げなければならない。専門委員会を対象としているテーマ4のコーディネーター1名と、分科会を対象としているテーマ3のコーディネーターが3名いるため、複雑化している。昨年度議論したことが生かされていないまま3名が派遣されることにならないよう留意いただきたい。

3. テーマ別の実施方針について

(1) テーマ1:新技術

- 技術リストについて非常に充実してきているが、3年目に入っているので整備が必要ではないか。これに関しても個別最適になっていると感じている。全体的にどのような林業を目指すのかということから、必要な技術について整理をされた方が良いのではないか。
- 技術リストについて、現場から見てその技術がどのような時に使われるかイメージがつかない。現場の作業に応じて技術を紐づけるような成果物になれば現場も身近に感じ、活用が進むのではないかと。
- 今現場にいる方については、新技術について必要な情報がすぐに見つかるようなリストが欲しいのではないかと。
- 新しい技術の社会実装については、課題起点か技術起点かの2つの視点が必要である。現在はデスクトップ調査を行っているということで、仮説でしかない。実装まで考えたときに、実際の現場がどういった課題を持っているかインタビューを行い、仮説があっているか検証し、課題を整理する必要がある。
- PF構築でアンケート調査を行う予定であるため、そこで現場からフィードバックを頂く手法もあると考える。

(2) テーマ 4: 森ハブ支援体制構築 (地域への伴走支援)

- プロジェクトの名前や目標、体制、スケジュール、ゴールが設定されるべきではないか。資料には「林業 DX の基盤となる自治体保有データ」とあるが、自治体の持っているデータを整備するという内容に見え、何をやっていくプロジェクトかわからない。この内容でプロジェクトを進められるのかというのが正直な印象である。
- コーディネーター派遣について年 3 回とあるが、地元に入り込んで、仲良くなって、一緒に進めていくことがコーディネーターの役割と考える。年 3 回の派遣では、コーディネーター派遣ではなく、コンサルタント派遣ではないのか。
- 地域のこともよく分かっているような方であれば、コーディネートも可能なのではないか。この体制でいいのか検討が必要ではないか。
- 森ハブの PF が立ち上がり、案件が大量に集まった場合、対応できる数は限られる。その時どのように仕分けをしていくのか。また、相談内容について、林業業界で想定される問題があると思う。それに対する準備をした上で、来年度支援可能な数を想定に入れながら進める必要があるのではないか。

現地の視点に立って現地の意見を国に対して言える人がコーディネーターのあるべき姿である。視座を現地に置く必要があると考える。

(3) テーマ 4: 森ハブ支援体制構築 (森ハブチェックリスト作成)

- チェックリストの目的に関して、「林業イノベーションとは何か」の定義を示す必要がある。自らの現状・課題を把握して、課題を解決するとともに新たな価値を作るところまでいかなければ、イノベーションにはならないのではないか。価値を創造するという認識を、初期段階で共有していく必要がある。

チェックリストの作成については、事務局で作成したものを現地でヒアリング・検証して専門委員会で議論する手順が良いのではないか。

(4) 森ハブ・プラットフォーム構築

- PF への参加者はそれぞれの問題について解消をしたいと考えて入会してくるため、入会した方に関しては、何かしらの指導やコメントが必要ではないか。
- アンケートでニーズを把握するということだが、本当に困っている課題がアンケート結果として出てくるのか疑問である。検討の余地があるのではないか。
- 省庁間の連携を行ってほしい。総務省のローカル 10000 プロジェクトと環境省の地域循環共生圏とは親和性が高い。情報の発信力という点で言うと省庁連携を行った方が、双方で PR することができ良いのではないか。
- PF を作った後にどのように活用していくのが重要である。

(5) その他

- 全体を通して、投資対効果・費用対効果のインパクトについて、国でやるような大きなインパクトがあるか気になっている。林業をどのような方向性にもっていくのかについて一定程度の仮説が必要である。

- 林業は様々な人や企業が今までトライアルしてうまくいっていないため、本当にイノベーションを起こさなければいけないことは何なのかを検討する必要がある。戦略性・構想からブレイクダウンしていくトップダウン的なものと現場から吸い上げるボトムアップ的なものを融合させるような取り組みをしていく必要がある。

PFでのマッチングにおいては、コーディネーターとなる仲介者が重要になる。仲介者がニーズを正確に把握し、それにあったシーズをマッチングさせる必要がある。

4. 閉会

今後のスケジュールについて：事務局から説明

以上